

## トリコデルマ生菌の毒性試験の概要

山陽薬品株式会社 企画室  
三共株式会社 農薬開発普及部

## 薬剤の概要

トリコデルマ生菌 (*Trichoderma lignorum*、商品名：同) は、日本では山陽薬品(株)により1953年に製剤が試作され、タバコの白絹病、腰折病における病害防除効果試験を実施し、1960年に製剤法を確立、1964年に製品1g (dry wt.) 中に生孢子5億個以上含有の製剤により農薬登録され、現在に至っている。

本剤は自然界にきわめて普遍的に分布する土壤微生物を有効成分としており、その防除作用は病原菌に対する天敵として働くもので、生物防除剤としての作用特性を持っている。

本剤の物理的および化学的性状等は次に示すとおりである。

菌 外観：青緑色

製剤性状：潤性帯緑色粗粉末

以下、本剤の登録取得等に際して実施した安全性評価のための毒性試験（急性経口毒性）を取りまとめて報告する。

## 急性毒性試験

## 急性経口毒性

ラットを用いて製剤の急性経口毒性を検討した。

検体を0.5%カルボキシメチルセルロースナトリウム水溶液に懸濁して経口投与した。

中毒症状及び生死を14日間観察した。検体投与時、投与後7および14日目に各動物の体重測定を行った。動物実験終了後に全例を屠殺し、肉眼的検索を行った。

ラットに対する経口投与における急性毒性試験の結果は表1に示すとおりである。

表1 急性毒性試験結果

検体の純度	動物種	LD <sub>50</sub> (mg/kg)	実施機関(年度)
製剤の乾燥物 1g中に生孢子5億個以上含有	ラット	♂♀共に >5000	財団法人 残留農薬研究所 (1992年)

死亡例は雌雄いずれにも認められなかった。

臨床症状では、雌雄とも異常は認められなかった。

投与後7および14日目の体重測定では、投与時の体重と比べ体重減少例は認められなかった。

剖検所見では、雌雄いずれの動物にも検体投与の影響と考えられる異常は認められなかった。

## 要 約

トリコデルマ生菌の安全性評価のため、急性経口毒性試験を実施した。

トリコデルマ生菌の急性経口毒性は低毒性であった。

この結果から、本剤は定められた使用方法を遵守することにより十分に安全性を確保できる有用な農薬の1つであると考えられる。

## 問合せ

山陽薬品株式会社 企画室

〒701-01 岡山県岡山市延友454番地

三共株式会社 農薬開発普及部

〒104 東京都中央区銀座2丁目7番12号